

第52回学長選考会議議事要旨

日時 令和3年5月27日(木) 13時00分～14時30分

場所 本部4階大会議室(Teamsによる遠隔会議併用)

出席者 学外委員：千葉委員，綾田委員，金子委員，神余委員，田中委員，西原委員
学内委員：野崎委員，佐藤委員，三野委員，上田委員，末永委員，深井委員
嶋倉委員，真鍋委員

欠席者 学外委員：なし

学内委員：なし

陪席者 根ヶ山監事

1. 審議事項

(1) 学長候補者の選考について

総務グループリーダーから、参考資料1～5に基づき学長候補者の選考方法等について説明があり、続けて、委員による学長候補適任者1名の所信聴取が行われた。その後、委員による意見交換が行われた。

続いて、意向聴取等管理委員会委員長から、議長あてに学長候補適任者意向聴取結果が提出され、総務グループリーダーにより同聴取結果の開封及び報告が行われ、続けて、再度委員による意見交換が行われた。

その後、議長から、学長候補者決定に際し、委員の意向を確認する方法について照会があり、審議の結果、投票に依らず委員の総意により学長候補者を決定することが承認された。

続けて、議長から、学長選考会議委員の総意として、寛善行氏を次期学長候補者として決定したい旨説明があり、審議の結果、全会一致により承認された。

(2) 選考結果の公示等について

総務グループリーダーから、審議資料1～2及び参考資料6に基づき、公示案、選考結果の公表案、記者会見の概要について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

なお、選考理由については、以下のとおりとすることが承認された。

(選考理由)

学長選考会議は、学長候補適任者に対して面接を行い、所信を聴取し、意向聴取の結果を参考として決定した。

寛氏は、平成29年10月に学長に就任して以来、経営・教学の最高責任者としてリーダーシップを発揮し、教育においてはDRI(注)教育の全学展開を、研究においては「産」及び「官」との連携推進を、組織運営においては学長戦略室の機能再編や事務組織の再編を行うなど、香川大学の教育研究及び組織運営の充実を図るとともに、令和4年度の創発科学研究科(仮称)の設置に向けて尽力するなど、着実に取り組んでいることを確認した。

また、地方国立大学を取り巻く厳しい状況が続くなか、第4期中期目標・中期計画の策定・実施という重大な時期を迎えるにあたり、寛氏は、香川大学の将来像を見据え、具体的に明確なビジョンが示されており、これまでの4年間で築いてきた実績や行動力等に鑑み、学長として再任後の2年間においても、持てる手腕を十分発揮することにより、香川大学の更なる発展が期待されるものと判断した。

(注) DRIとは、次のとおり。

Design thinking：イノベーションを創出する「デザイン思考」

Risk management：レジリエンスやセキュリティ等に資する「リスクマネジメント」

Informatics：専門分野を超えた「インフォマティクス」

2. 報告事項

なし

3. その他

なし

以上